

# 杜をわたる風 ～北杜高校だより～

ホームページアドレス <http://www.kai.ed.jp/HOKUTO>  
本誌は北杜高校の広報誌です。ホームページ上でもお読みいただけます。

TEL:0551-20-4025 FAX:0551-32-3194

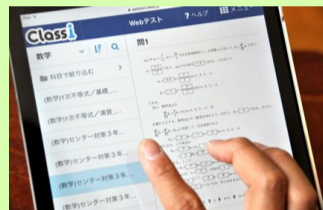
## 山梨県立北杜高等学校



### 「3つの柱を振り返る」教頭 小林 大二

本校教育は3つの柱「学びの創造」、「自己指導能力の醸成」、「家庭・地域との協働」からなります。後期が始まったばかりで、少し早い気もしますが、本年度の取り組みについて振り返ってみたいと思います。

「学びの創造」：昨年度に引き続き、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善を行っています。ペアワークやグループワーク、ICTの利用、近隣の小・中学生との交流などを通じて、学習内容の定着と深化が図られています。また、課外や土曜日の「学びの時間」、宿泊学習会、進路決定に向けた面接・小論文指導など、学習補強の取り組みも効果的に実施されています。「自己指導能力の醸成」：本年度は、文科省から「実践的防災教育」の研究指定を受け、災害時に実際の行動につながる力の育成を図っています。無告知での防災避難訓練を通じての課題発見、救急救命講習会にて人命確保技術の修得ほか、東北へのボランティア活動などを通じて防災の考え方や知識を深めています。また、研究は続いていますが、結局、防災の第一義は「自分の体と心は自分で守る」＝自己指導能力にあるのだと感じているところです。部活動では、山梨県総合体育大会（男子総合得点は県立高校の中で3位！）や全国総合文化祭、関東大会で多くの部やクラブが活躍しています。たくさんの活躍の詳細は、この広報誌や学校ブログで見てくださいたいと思います。「家庭・地域との協働」：PTA諸氏には、例年に違わずフェスタ、強歩大会等の学校行事の運営で多大な協力をいただく一方、今年は関東高校PTA大会第2分科会「進路指導とPTA」では多数の本校PTA役員の参加協力のもと、井上PTA会長の「ふるさとの再発見」と題しての発表がありました。また、昨年度の本校と北杜市との包括的連携協定を受け、市政方針演説・パラリンピアン講演への参加、北杜市内参入企業の見学、ふるさと創成会議参加などを行い、地域に根ざす人材育成を図っています。



「ICT利用」

### 「いざという時」のために

本年度、実践的防災教育推進校の指定となり、「自らの命は自ら守る」行動を育む事業を展開し、様々な実践活動を取り入れている。「多数派同調のバイアス」「正常化のバイアス」という言葉をご存じだろうか、大きな災害が発生する確率が高まる中で、「たぶん起きないだろう」や、災害が起きた場合でも「たぶん大丈夫だろう」と我々は偏見を持ち、状況を見誤りがちになるそうである。「いざという時」にはこういった、偏見にとらわれることなく、自ら状況を判断し、「自らの命は自ら守る」この実践力を高めるために今年1年かけて事業を行っている。家庭でも是非「その時」のために備えをしていただきたい。（生徒指導主事 花輪孝徳）



### 進路指導の紹介

昨年度の卒業生の進路決定状況は、四年制大学が約40パーセント、短期大学が約10パーセント、専門学校が約35パーセント、就職・その他が約15パーセントとなっています。



生徒の進路実現をかなえるために、様々な進路行事が行われています。生徒が自己の適性を知る機会として、年2回の進路ガイダンス、2年次のインターンシップ、一日看護師体験などの各種体験実習があります。学力向上としては、土曜日午前中の「学びの時間」を利用した土曜講座、夏季休業中の課外授業、3泊4日の宿泊学習会、校外模擬試験などがあります。また、3年次の面接指導・小論文指導では、昼休みや放課後に熱心な指導がおこなわれています。理数コースではデジタル学習支援教材「Classi」を導入し、日々の学習記録やテストの配信、学習動画の利用によって、自学自習力の強化をはかっています。



就職希望者に対する指導は、2年次の11月下旬から始まり、3年次の7月まで、週2回の頻度で放課後に行われます。2年次には、社会人としての心構えや就職についての基礎知識の確認、およびSPI問題集による筆記試験対策を行います。3年次には、求人票の見方や履歴書の書き方、面接の際のマナー指導等、より実践的な取り組みをします。3年次の8月中旬には受験企業が決定できるよう、段階的に指導します。9月16日から就職試験が始まりますが、直前まで面接指導を行うなど、全員が合格できるよう全力でサポートしています（進路指導主事 市川久）

### 「防災ボランティアで教わったこと」

私たちは8月に3日間宮城県、岩手県にボランティア活動に行きました。東日本大震災が起きてからもう6年たっているので、ガレキはありませんでした。しかし、建物が建築中だったり、盛り土をしていたりと、まだ復興は完全ではありませんでした。私たちは、大谷海岸の除草作業や、地震発生時の話をたくさんの人たちから聞いたりしました。除草作業は、海岸に生えている草をとりました。またこの海岸がきれいになって、人がたくさん来てほしいと思いました。被災した小学校や、被災した人たちが住んでいる復興住宅で話を聞くことで、あらためて地震の怖さについて理解しました。もし地震などが起こった時はまず、自分の命を一番に考えるということも教わりました。私たちは、災害時にこのことが実践できる自分でありたいと思います。そして大切な家族や友人もそのような行動がとれるように伝えていく責任があると思いました。（2年 田中希龍）



### 普通科宿泊学習

7月24日から27日の3泊4日、長野県南牧村において宿泊学習会が実施されました。1年生32人、2年生39人、3年生9人の計79人が参加し、一日10時間、4日間で33時間の学習に取り組みました。規律ある一日の生活リズムの中で、生徒たちはお互いが切磋琢磨し、自学自習の大切さなど、多くのことを学びました。



### 理数コース校外学習

10月5日、1年生が早稲田大学、2年生が東京農工大学、そして電力中央研究所を見学する校外学習が実施されました。生徒たちの感想からは「実際に学生が講義を受けているところが見られたのが良かった」、「研究所見学で、発電という領域で放射線について研究していることにも興味を持った」等、大きな刺激を受ける貴重な一日となりました。



### 福祉ライフデザイン系列

福祉ライフデザイン系列では、社会福祉の理念や意義を学び、自立した生活を支援するための介護技術や知識を習得します。また、家庭科（食物・被服・保育・住居）に関する知識や技術を習得し、実生活に生かし、生活を向上させる能力を養います。食物・被服・保育の授業においては、「全国高等学校家庭科技術検定」の取得を目指し、栄養士や保育士を希望する生徒が多く学んでいます。3年生になると、家政コースと福祉コースに分かれます。家政コースでは「生活科学」という授業において、家庭科の応用発展的な学習を行います。福祉コースに進んだ生徒は「介護職員初任者研修課程修了」の資格取得を目指します。この資格は福祉の仕事をするための初級の資格であり、介護施設等への就職はもちろん、福祉系の進学にもつながります。平成29年度は、2年生30名、3年生31名（家政コース8名、福祉コース23名）が資格取得にチャレンジしながら有意義な高校生活を送っています。



### 系列の紹介②

### 環境工学系列

環境工学系列では、道路や橋、上下水道整備など社会基盤整備の担い手を目指した学習を行います。私達が安心安全で社会生活を送るためには、道路や橋などの施設設備が造られ、維持されていくことが必要です。また、近年、全国各地での自然災害が多発しており、その災害への備えも大変重要となっています。環境工学系列では建設会社で道路や橋などの工事、維持管理、自然災害への備えを行うために必要な人材の育成を主としています。系列必修科目として、土木構造物の設計の基礎学習「土木設計」、構造物の施工の学習「環境施工」、「測量」があります。選択科目は森林や緑地などを学習、また、資格取得を目指した科目も設けてあります。主な資格取得として、小型建設機械運転資格、ガス及びアーク溶接資格、危険物取扱者、製図に関する資格（3級から1級）があります。3年秋の「2級土木施工管理技士」学科試験の合格を目指します。





# フェスタ杜のきらめき

10月7日、北杜高校の一大イベントの「フェスタ杜のきらめき」が今年も盛大に開催されました。当日は雨天から天気が回復し、たくさんの保護者や地域の方に来校して頂きました。総合学科5系列ではそれぞれ学習内容にあった出店を開き好評でした。また今年は防災ブースや起震車も設置され地域への啓発の場となりました。



**環境工学系列** 私達環境工学系列は、小学生等を対象とした木工教室を開きました。私達は来場者にノコギリや金づちなどの使い方を教えながら子供たちが本立てを作るを手伝いました。最初は小さい子に教えることが難しく大変でしたが、子供たちと仲良く会話をしながら作業することが出来るようになりました。完成した後の子供達のうれしそうな顔や、「ありがとう」といわれ、とてもうれしかったです。また来年も続けていってほしいと思いました。  
3年 飯野虎次郎

**生物資源系列** 第15回フェスタ杜のきらめきが終了しました。そして私たち3年生にとっては最後のフェスタでした。生物資源系列では、各専攻（草花、野菜、果樹、食品加工）ごとに準備を重ねてきました。春からこれまでに種まきから収穫、食材によっては食品加工まで、一つ一つの作業を心を込めて丁寧に行いました。見事に咲いた花、収穫した野菜や果樹、出来上がった加工品をたくさんの地域の方々で購入して下さり喜んでくれている姿は、私たち生物資源系列の生徒にとって、とても充実感にあふれたすばらしい瞬間でした。本当に生物資源系列に所属できたことを良かったと思います。今後も地域に愛される北杜高校のフェスタをずっと続けていってほしいです。  
3年 横森乃杏

**国際文化系列** 私にとって3回目となる今回のフェスタは、国際文化系列の最後の出店でもありました。1年生の時からこのブースには興味がありましたが、実際に自分が関わることになってからも接客や販売の大変さを実感しました。しかし、地域の方とのふれあいや、学年を越えた系列内の生徒同士のコミュニケーションを通して思い出に残る充実した時間を過ごすことが出来ました。ご協力頂いた皆様に感謝しています。3年 上野未亜

**情報ビジネス系列** 今回私は、「だたらぼーの」の店長として系列の生徒をまとめ、協力し合い良いものを作りあげることができたと感じています。前日準備を含め多くのトラブルに見舞われ、当日も雨が心配されていましたが、みんなの頑張りが報われるかのように晴天のなかで営業することができ大変うれしかったです。今回のフェスタで新しく取り入れたアイデアなどから反省や改善を行い、来年度はさらによりよいものを作り上げてほしいと感じています。3年 坂本瑛紀

**福祉ライフデザイン系列** 今年、福祉ライフデザイン系列は、自助具を体験してもらい、自助具について知ってもらってから、アイロンビーズかバルーンアートのどちらか体験してもらいました。私はバルーンアートを担当したのですが、今年は作る種類が増えたり、自助具体験の確認をするなど、昨年と違うところがあり、結構忙しかったです。作るのに時間がかかったりしてお客様を待たせてしまったところもありましたが、多くの人に喜んでくれたと思うので良かったです。  
3年 末吉みなみ



## 全国総文祭優秀賞 放送部



今年の夏、宮城県で行われた第41回全国高等学校総合文化祭放送部門のビデオメ

ッセージ部門に、北杜高校放送部が山梨県代表として出場しました。結果、全国の代表96作品中、本校の作品が最も優れた8作品の中に選ばれ、優秀賞をいただくことができました。昨年に続いて2年連続、4度目の受賞です。作品は地元北杜市に増えている「太陽光発電ソーラーパネル」を題材にして、良いところも紹介しながら、パネルの増加に不安を抱える住民や、行政、設置業者へ取材をした社会派の番組になっています。

今回はソーラーパネルの景観問題など、難しい内容に挑戦したので、生徒は番組を見た方に偏った印象を与えないように制作段階で苦労していました。

題材選びから取材対象の選定、アポイントをとって直接取材をし、それを番組にまとめるという一連の作業の中で、生徒は毎回たくさんのお話を学ばせていただいています。特に地元北杜市の方々には、「地元の高校生に協力しよう」と大変親切にいただき、取材をお願いしたこちらが恐縮すること度々でした。感謝の気持ちと共に、社会人としての対応を学んだ作品作りとなりました。  
(顧問 水川洋子)



## 農業クラブ意見発表 全国大会出場

皆さんは果物や野菜を自分自身で育て収穫し、仲間と一緒に食べたことがありますか？

こんにちは、北杜高校総合学科で生物資源系列に所属している河西飛鳥です。主に果樹を専攻し、ブドウやモモなどの管理を授業で行っています。普通の高校生活では体験できない自分たちで育てたものを自らの手で採り、仲間と食べる喜びを感じることができます。さて、私は農業クラブという全国の農業高校生と連携を取り、農業の現状を把握しより良く



する委員会にも所属しています。話し合いはもちろん、農業について競い合いの中で互いに知識を深めることができる組織です。私は、意見発表という農業についての弁論大会に出場し、関東大会を勝ち抜き全国大会へ挑むことになりました。毎日先生と意見を出し合い一生懸命取り組んだ結果にだけいたった賞です。頑張ってきたことが実を結び受賞できた時の喜びは忘れられません。農業クラブ委員として活動し、日々の成果や考えを発表できるところまで成長できる北杜高校で学んでみませんか？仲間と共に植物を育て植物と共に自分が成長できる素敵な学校です。(3年2組 河西飛鳥)



## インターハイ入賞 ウェイトリフティング部



昨年度の3年生が卒業後、部員は1名となり、部の存続が危ぶまれました。しかし、主将の比嘉龍選手は、そのような環境にも負けず、外部コーチの加賀美さんと二人三脚で練習を続けてきました。その結果、全国選抜大会5位・インターハイ8位と全国レベルの大会で入賞を果たす事ができました。現在部員は、3年生1名・1年生3名となり少人数ですが、全員が全国大会で優勝する目的を掲げ、日々の練習に目標を持ち、これまで以上に練習場は活気と熱気にあふれています。ウェイトリフティングは、自分との闘いです。その中で一番大切だと感じるのは「なぜ」と自問自答することだと思います。「なぜ、できなかったのか」「なぜ、できたのか」。その繰り返し、これからも山梨県立北杜高等学校ウェイトリフティング部の歴史を繋いで行ってくれることと思います。(顧問 坂井護明)

## 交通安全教室・防災教育

原動機付き自転車の免許保有者と通学者が県内最大規模の本校では、交通事故や違反件数が多い現状を踏まえ、スタントマンによる事故防止教室を開催しました。スタントマンによる迫真の演技は全校生徒について自分でも行っている危険行為に気づき、安全運転に対する自覚を高めさせるよい機会となりました。



「交通教室に参加して」交通教室で改めて交通事故の恐ろしさを感じる事が出来ました。スタントでは実際に起こった事故を再現して、その衝撃や原因を教えてくださいました。私は普段バイク通学なので、今回学んだことを生かし加害者にも被害者にもならないよう気をつけて運転したいと思いました。(3年 中島海人)



## 強歩大会

「一位になって」

今年は個人的にも多くの出来事があった。様々な想いを胸に秘め、臨んだ強歩大会だった。部の仲間と共に目標を立て、私は上位5番以内という目標達成に向けて必死になって走った。その目標のお陰で一位でゴール出来たと思う。走り終わった後、ゴールしていく仲間を眺めていたが、これまで辛いことも一緒に乗り越えてきた仲間が目標達成できずに悔しがる姿を見て、私も大変悔しい想いで一杯になった。周囲の人達の励ましで一位になれた私は感謝の気持ちを忘れず、これからの学校生活でも自分なりの目標を立て日々努力したいと決意した日になった。(2年坂本悠哉)



「起震車に乗ってみて」私はフェスタで起震車体験をしました。震度5を体験したときに「東日本大震災」を思い出しました。当時小学生だった私は先生の指示通り机に潜ることしか出来なかったのですが、今回震度7を体験してみても「揺れる」より「跳ねる」という感じがしました。実際、地震が起きたらどんなことが起こり得るのか想像力を働かせて考え、家具の固定などの対処を出来るだけしておく必要性を痛感しました。(3年 入野野桂司)

